

2020年10月

【ママやパパたちへ】10月の育ちのころ 「ボクはボクが好き!! 自己肯定感を育もう②」

先月発行の「園からこんにちは9月号」で、「子どもに絶対言ってはいけない『全否定3要素』」を紹介しながら、『自己肯定感を育む』ことに触れました。

『自己肯定感が高い子』は、自分に自信をもって生きていけますから、失敗を恐れなくて、何事にも意欲的に取り組む姿にあふれます。幼児期は人生の根っこをはりめぐらす時期ですから、この『自己肯定感を高める』ことこそ、その根っこをはりめぐらすことにつながるのです。

わが子を愛してやまないパパやママに、「子どもを愛するとは、わが子の自己肯定感を高めること」と覚えてほしいと願います。そして、そのために、「言ってはいけない『全否定3要素』」として、『人格否定』と『能力否定』と『存在否定』について考えてみたいと思います。

まず、「人格否定」です。

9月号で紹介した、親野智可等(おやのちから)さんが、小学生のときに学校の授業で教師から言われた言葉が「隣の〇〇の答えを見ただろ。お前にそんなことがわかるはずがない」でした。

先生は、私のことを「隣の子の答えを盗み見て発表するようなずるい子」だと思っているわけです。これは私の人格を丸ごと否定する言葉であり、忘れようと思っても忘れられない類いの言葉です。

この「ずるい子」が、「人格否定の言葉」にあたります。

親野さんの中でこの「お前はずるい子」は決して消えるどころか、何かあるたびに「お前はずるい子」が反響し、「ボクはずるい子なんだ」と時には自分で自分を否定するところにまで追い込むのです。

だから、「人格否定の言葉」は絶対に言ってはならないのです。たとえ1回でも、言われたほうが深く傷つき、一生わすれられなくなることだってあるのです。

そして、自分が傷つくだけでなく、言った相手に対する不信感も湧きあがるのです。

ほかに、この「人格否定の言葉」があるでしょう。

兄弟喧嘩の時の、「(弟や妹に対しての態度を責めて)なんでそんなに意地悪なの」の「いじわる」。

「後でやるって言ったのにやってない。やっぱりうそつきだ」の「うそつき」。

ほかにあります。だらしが無い。情けない。怠け者。根性がない。バカ。のろま。弱虫。泣き虫。

何度言ったらできるの。口ばかり。いつもそう。そんな子に育てた覚えはない。どうしようもない。

いつもそう。無理。信用できない。だからダメなんだ。……………。

「ああ、何度言っちゃったことか！」と、親としてわが身を振り返って落ち込みますが、「今からでも気をつけよう」と思います。「人格否定」は止めなくちゃ。ぜひ、みなさんも一緒に、です。

〔園長：飯塚拓也〕